

Soar Narromine NEWS 2000・・

2000, 1219 ナロマイン便り・Report from Shinzo

先月、オーストラリアは数十年ぶりの大雨に祟られました。Shinzoがそのときの模様を伝えます。

「先月のオーストラリア天候不順のニュースは、広く知られるところとなりました。オーストラリア全土がモンスーンに覆われ、特に11月の第二週目は毎日雨が降りました。毎年この時期グライダーでオーストラリア国内を旅して廻る“The Safari”のメンバーも旅を中止、この時期訪れた何人かのお客さんは、とうとう単座機で飛ばずじまいでした。

この少し前、クイーンズランド州の数カ所で洪水がありました。この時の雨はかなり激しく、その後NSW州のGunedahも水に浸かりました。ここはLake Keepitのすぐ隣の町です。

ナロマインでは、11月の第三週からは毎日飛べるようになりました。雲が多い中、トップは8,000feet～10,000feetでしたが、サンダーストームのため日没までは飛ばない日が数日ありました。そんな不順な気象条件の中、ヨーロッパからのアドバンス・パイロット達や日本からの学生さん達は実によく飛びました。

この天候不順は付近の小麦農家にとっては大問題です。収穫ができません。しかし今月の第一週目からは、今だ湿度が高いながらも積雲の浮かぶ空の下、彼らも刈り取りを始めたようです。12月中旬に入り地表面も大分乾いてきました。それに伴い刈り取りの済んだ小麦畑があちこちに出現してきました。見たところ乾燥状態も良く、グライダーのアウトランディングに最適なようです。これでやっと私たちのオペレーションも平常に戻ります。

最近の2～3週間は気温が33～38℃、でもこちらにしてはまだ湿度が高いです。晴天で高温多湿は身体に应えます。でもお客さん達は皆さん積雲の下、楽しそうに飛んでいます。

Please take care.

Shinzo Takizawa]

2000, 1204 Guest Reportを紹介しします

今年の「夏休み特別企画」に参加した学生さんから、心のこもった”熱い”レポートが届きました。本文全文は(財)日本学生航空連盟機関誌「方向舵」次号に掲載予定ですが、本HP用にも要約文を寄せてくれました。そこでこのHPに[Guest Report](#)コーナーを作ることにしました。学生の皆さん、またはこれから海外で飛ぼうと考えているパイロットの皆さん必見です！！

2000, 1105 ナロマイン便り

Soar Narromineでは、地元グライダーパイロット所有の**LS8**の運航を始めます。お客さんへの貸出もOKとのこと。興味のある方はメールでお問い合わせ下さい。貸し出す場合の料金は、Discus bと同じA\$220 / dayです。

2000, 1030 International Young Teams Challenge Week 2000 22 - 31, October

Soar Narromineでは毎年世界各国の若手トップパイロットを招待して、Team Challenge形式の特別トレーニングをおこなっています。今年も各国の有望若手パイロットの参加がありました。

参加者と搭乗機は以下の通りです。

Lisa Turner(LS 4a) : オーストラリアのベストジュニア。ヨーロッパ・ジュニア選手権参加。

Michael Streit(Discus) : 国際ホッケンハイム競技会(ドイツ)ベストジュニア。

Ruli Wakamatsu(Discus) : 1999年度全日本学生選手権優勝。

Yoshihiro Aida(Discus) : 1999年度全日本学生選手権2位。

参加コーチ

Kerrie Claffey(Discus) : 4度の女子世界記録樹立者。

Tom Claffey(Discus) : Baron Hilton Cup優勝。オーストラリア・ナショナルチーム。

Yuji Morinaka : 1995年世界選手権出場。

Shinzo Takizawa : Soar Narromine CFI。



Picture : Before Take-off

*このInternational Young Teams Challengeは、Soar Narromineが招待選手・コーチのグライダー及び曳航手段を提供。ドイツ滑空協会がドイツ選手の旅費を、(財)日本学生航空連盟が日本航空株の協力のもとオーストラリア派遣事業の一環として日本選手の旅費を提供しています。

2000, 1023 来シーズンの料金表が届きました

[2000-2001年シーズンの新料金表](#)です。オーストラリアは今年から消費税(GST)が導入されています。すべての料金には10%のTAXが加算されますのでご注意下さい。

2000, 0927 Shinzo's Column 更新しました

今年の「夏休み特別企画」を振り返ります。

2000, 0916 「夏休み特別企画」期間延長！ 10月20日まで！！

7月からスタートしました今年の「夏休み特別企画・集中トレーニングコース」ですが、パッケージ格安料金と日程の自由設定がご好評を戴き、今年もこれまでに多くの参加者がありました。そこでSoar Narromineでは今年の期間延長を決めました。予約は今からでも充分間に合います。

お問い合わせ・予約は、ideo@tkd.att.ne.jp までお気軽に。

2000, 0909 Glider Tour 2000の変更について

前回のNEWSでGlider Tourの日程をお知らせしましたが、この時期ナロマインで通常トレーニングを希望されるお客さんが多いため、Glider Tourの日程はひとまず白紙とします。でもメンバーさえ集まればいつでも実行可能です。今後はリクエスト・ベースでTourに出たいと思います。

ナロマイン便り

シドニー・オリンピックまであと6日、シドニーから300km内陸のナロマインにも夏がやって来ました。もうみんな半袖に短パンです。撮影 9月6日



2000, 0808 **Glider Tour 2000**

ナロメインを起点にグライダーで泊まりがけの旅に出る。今年Glider Tourの日程が決まりました。

Glider Tour 2000 : 11月11日～19日

この時期オーストラリアへ行こうと考えている皆さん、この機会にグライダーの新しい楽しみを体験してみませんか？

上記以外の期間でも、希望者が複数集まれば随時実施します。

詳細はお問い合わせください。

[昨年のGlider Tour レポートへ](#)

2000, 0720 オーストラリア便り from Christiane

ヨーロッパから帰ってきた私とShinzolは、「夏休み特別企画」(こちらではWinter Sessionといいます)をスタートしました。予定では今日(20日)からスタートだったのですが、どうしても、というお客さんがいらしたので2週間早いスタートとなりました。

この2週間、no-flying dayは一日だけでした。

美しい新緑の大地、透きとおるような青い空にぽっかり浮かぶ白い雲。この時期、私たちは夏と比べてコントラストがはっきりした美しい景色の中を飛んでいます。だけど

気温は例年と比べ2～3℃は低いようで、ちょっと寒い日が続いています。

インターネット等でオーストラリアの天気をご覧の方はお解りと思いますが、寒冷前線は私たちのいるナロメインよりも南側を通過しますので、私たちは雨から解放されているのです。

写真は今、ナロメインで飛んでいるお客さんです。



2000, 0713 オーストラリアから突然のメール

Tooraweenah在住のソフトウェア・エンジニア、James Cameronさんという方から突然メールをもらいました。なんでも「ネットサーフィンしていたら、偶然自分の住む町を空から撮った写真を見つけた。しかも驚いたことに日本人のHPだ。さっそく日本語の読める友人に訳してもらった。もし次回グライダーでこの町に来ることがあったら是非連絡してほしい」とのこと。

どうやら昨年の[Glider Tour Around Australia](#)のレポートを見た人のようでした。さすがにその道のプロ、空撮写真をダウンロードして自分の家にマーキングして「ここが俺の家だ。君らが泊まったB & Bのオヤジは俺の友達だ」と添えてありました。どうやら次回のツアーは、町の人も交えて盛り上がったものになりそうです。

2000, 0609 [Shinzo & Christianeのヨーロッパ便り](#)を更新しました。

Shinzoがフランスの競技会で3位に入った速報です。

2000, 0523 [Shinzo & Christianeのヨーロッパ便り](#)を更新しました。

2000, 0511 [Shinzo & Christianeのヨーロッパ便り](#)を現地からの写真入りで別ページにしました。是非ご覧下さい。(これらの写真は元学連事務局長・戸田さんから寄付されたデジカメで撮られています)

2000, 0507 [念願のDiscus 2 を受領!](#) ([Shinzo & Christianeのヨーロッパ便り](#))

For Sale !! LS3a (VH-IZM)

Soar NarromineではDiscus 2の導入に伴い、長年皆さんに親しんで頂いたLS3a (VH-IZM)を手放すことにしました。もしこの機体を購入し日本国内で飛ばしたいとお考えの方は、[井手尾](#)までご一報下さい。

FOR SALE !! LS3a (VH-IZM)

価格 200万円 (日本への輸送費は含みませんが、輸送の段取りはします)

総飛行時間 4,000 Hours / 1,430 Landings;

1979年製造

付属計器 Zander SR 800, Dittel ATR 720 Comm. Transceiver

大修理歴なし。

2000, 0403 Soar Narromine 1999-2000シーズン飛行実績

Soar Narromine今シーズンの飛行実績集計が公開されました。

興味のある方はご覧下さい。[飛行実績\(1999-2000\)](#)

2000, 0331 「夏休み特別企画2000」続報!

先日お知らせしました今年の「夏休み特別企画2000」に一部変更がありました。開始日を早め、料金の日本円による日本での支払い制度を作りました。これでオーストラリアへ大金を持っていく不安から解放されます。詳細は[「夏休み特別企画2000」](#)をご覧ください。

2000, 0325 ナロメイン近影



ナロメインにもやっと秋の気配。夏の間、灼熱の太陽に焼かれ茶色に枯れていたRunwayの草に、緑が目立つようになってきました。

2000, 0323 Shinzo & Christiane夫妻の一時帰国予定

今シーズンは今月28日で終了。Soar Narromineは東の間の休暇に入ります。例年この期間、Shinzoさん夫妻はChristianeの故郷ドイツを拠点にヨーロッパ各地のグライダー競技会を転戦します。今年もドイツへ向かう途中、日本に一時帰国し我が家に滞在する予定になっています。

もしShinzo & Christianeと直接お話したい方がいらっしゃいましたら、お気軽にお電話下さい。

3月30日(木)夜:帰国 / 4月6日(木)昼:出国予定
滞在先:井手尾(TEL 047-350-8969)

2000, 0316 「夏休み特別企画2000」発表！

今年の[「夏休み特別企画2000」](#)の詳細が発表になりました。お問い合わせ、予約等はメールでどうぞ。

2000, 0307 Shinzoさん、NationalでDaily Champ.を獲得！

現在ベナラで開催中のAustralian NationalのDAY 6、愛機Discus a (35)でスタンダードクラスに出場しているShinzoさんが1000pointを獲得。Daily Championとなり、総合順位も9位に浮上しました。

同クラスはIngo Renner, John Buchananなど強豪揃い。後半戦が楽しみです。

2000, 0209 ナロメイン便り



暑い日が続いています。今日も37°C。雲底9,000feet。一日のフライトの後、眠っている人を見つけました。疲れたんでしょう。



午後7時半、今日のフライトの興奮さめやらぬ面々が、格納庫で機体を水洗いしています。

2000, 0208 **Soar Narromine Official Home Page 完成!!!**
ついに！Soar NarromineのOfficial HPが完成しました。

<http://www.soarnarromine.com.au/>

とは言ってもまだまだ制作途中ですが・・・
現在ご覧のこのHPも、日本語コーナーとしてこの中に移る予定です。
更に今後、Bernd ファミリーのドイツ語版HP、そしてフランス語版制作の計画もあり、これらを統括してSoar Narromine World Wide Network(ちょっと大げさですが・・・)を作っていこうという計画です。
HP担当スタッフも増えました。私たち夫婦二人で細々と作っていたこのHPよりも内容充実間違いありません。ご期待下さい！

2000, 0131 ナロマイン便り



ナロマインの地上気温
40°C、サーマルは+10ktで
雲底10,000feet以上。
このGood Conditionも、イギリスから到着したばかりの5人のパイロットにとっては、ちょっとハードみたい。
なにしろ雪のイギリスからやって来て、いきなり気温40°CのTOP Glider Conditionの中を飛んでいるのだから。

2000, 0127

14日付けの写真(下の2枚目)の説明で、「300kmが3人と750kmが1人」とありましたが、「500kmが3人と750kmが1人」の誤りでした。実際に飛ばれた方から、ご指摘がありました。訂正させて頂きます。すごいBig Dayだったみたいですね。

2000, 0114

あけましておめでとうございます。
今年最初のナロマイン便りが届きました。



写真はクリスマス- New Year Holiday Week最終日の離陸前風景。連日の積



雲コンディションにみんな
Happy。



今まさに沈もうとする夕日
を前にお祝いの乾杯！
この日は、500kmが3人と
750kmが一人達成されまし
た。

Shinzo & Christiane's Europe Report

2000, 0609 Shinzo フランスの競技会で3位！！

先月末から今月上旬フランスのSarregueminesでおこなわれたState Competitionsで、Shinzoは全22選手中3位に入りました。そこに居合わせた人たちは、みんなとても驚きました。なぜならShinzoのようなオーストラリア人(?)パイロットは、ヨーロッパのweak conditionでは巧く飛べないというのが、ここでの通説になっていたからです。 Competition 上位3選手



愛機Discus 2aは快調でした。気象条件はweak thermalの典型的なヨーロッパ・コンディション。でもShinzoは、Discus 2aがこのようなコンディションに適していると感じました。特にweak conditionでの上昇率が素晴らしい。それではDaily Reportです。

Day 1: 27, May タスク111km。Shinzoは平均速度86.97km/hで2位。

Day 2: 28, May No flying.

29, May - 31, May お休み。競技は2週末に分けておこなわれた。

Day 3: 1, June タスク 310km。全機アウトランディング。Shinzoは234kmを飛んで5位。この日の最長飛行距離は253km。

Day 4: 2, June 3時間のCats Craddle。Shinzoは112kmを飛んで5位。

Day 5: 3, June 3時間のCats Craddle。Shinzoは240kmを飛んで5位。

Sarregueminesでの競技会は私たちにとって本当に素晴らしいものでした。フレンドリーな雰囲気でもっとリラックスできました。

特にフランスの人たちのhospitalityを強く感じました。滞在先が馬牧場だったので、多くの美しい馬に囲まれた生活でした。

Tonyは今大会中、コーチとして飛んでいました。彼はフランス政府に雇われており、あらためてこの国を代表するコーチの一人なんだと実感しました。

今大会のコンテスト・ディレクターMarc Schroeder氏は、Paderborn / ドイツの世界選手権スタンダードクラス優勝者で、Benallaの大会でもオープンクラス2位になった人です。競技期間中を通じて本当に難しいコンディションでしたが、彼らは常にベスト・タスクを設定しました。

アウトランディングが数多くありましたが、問題はありませんでした。だから最後の表彰式では全員で楽しくシャンペンを飲むことができました。みんな「次はナロマインでやりたいね」と言ってくれました。

2000, 0522 Tony と再会

先シーズン、Soar Narromineのクロスカントリー・トレーニングでインストラクターを務めてくれたフランス・ナショナルチームコーチ、Tonyと再会しました。



Shinzoは今週末からフランスの競技会に参加します。

2000, 0507 念願のDiscus 2 を受領！

現在ShinzoとChristianeは、東の間のシーズン・オフをChristianeの故郷ドイツで過ごしています。休暇とはいえヨーロッパ各地の競技会への参加、機体整備の勉強などなどグライダーから片時も離れられない二人です。二人から届いたヨーロッパ便りをお届けします。



2週間ほど前、念願の新品Discus 2 "36"を受領しました。Shinzoはこの機体のFirst flight / Test flightの場に、4/21 - 29のHockenheim競技会を選びました。新品ゆえ、新しい計器やコンピューターの調整が必要で競技に集中できる状況ではありませんでしたが、機体の性能そのものは大変満足できるもの

でした。LS 8を凌ぐのではと感じています。ただ一つ気になるのは、Wing Loadingのコントロールが難しいことです。その意味で、この機種は日本の学生さんたちが安易に選択しない方がよいとの印象でした。

今週Shinzoは、より深く整備の勉強をするためにSchempp-Hirthの生徒になります。



ChristianeのDiscus 2a Pilot's Report: Discus 1と同様、操縦が容易で上昇性能がよい。滑空比はさらに良くなっている。(ShinzoはHockenheim競技会で、LS 8とDiscus 2aの滑空比を比較する絶好の機会を得た。これは偶然同高度でLS 8とsmooth airの中を飛行したもので、30km飛ぶ間にLS 8よりも80m程高くなったという)

操縦感覚は良いが、responseがsharpだと感じた。これにより、現在私たちはDiscus 1を貸し出すときのパイロットに要求する最少飛行時間を100hoursとしているが、Discus 2の場合は300hoursとしたいと考えている。



Schempp-Hirthは、Discus 2aのために新しいHeadrestを開発し、“36”にも搭載された。今後私たちはDiscus 1a “35”にも搭載するつもりだ。

搭載計器: Cambridge Logger, L-NAV, そしてPalm-NAV



Hockenheim競技会のためにコンピューター等を設置をするShinzo



Christiane & Shinzo

2000年4月末日Hockenheimにて、

[メニュー](#)へ戻る

Shinzo Takizawa コラム

Soar NarromineのオーナーでCFIである滝沢信三が、日本のグライダー愛好者に語りかけるコラムコーナーを作りました。その時々のおーストラリアの話題を随時お届けします。ご期待下さい。

===コラム2 2000年9月25日=== (写真は9月11日撮影)



昨日(9月24日)で今年の「夏休み特別企画」Winter Sessionも一段落しました。

7月5日～9月23日まで(8月の最終週を除く)、11週(週7日)飛び、14人が日本、オーストラリア、スイスより参加しました。Double-seaterのフライトが257回、single-seaterが109回、計366フライトでした。

内訳は、
 ASK21, TWIN II 257回
 ASTIR IIIb 27回
 DG101 19回
 LS 4a 28回
 DISCUS 24回
 ASW20B 11回

ウェザーは例年とは異なり、雨と風で飛べない日が3日もありました。この時期にはめずらしいサンダーstormも3回ありました。8月は寒く、9月は暑く、8月末の週末にはストーブを消した翌日にプールで泳いだほどです。

いずれにしても、今年に限っては「夏休み特別企画」の広告に偽り有りです。すみません。

でも晴れた日は毎日のように積雲が出て、皆さん元気に事故もなくそれぞれの目標を達成してくれました。その結果が上記のフライトになりました。

ここ数年、小さな技術を身につけるためだけではなく、高い目標を持って立派なパイロットになるための練習をしたい、と言って訪れる人が増加していますが、今年はまだ新タイプ、「最初が肝腎、基礎を正しく身につけるために」と、一年生がやって来ました。このように目的意識が明確な人は、練習内容がリッチになるので、タスク達成は早いようです。この学生さんは2週間の滞在で単座機でのソアリングまでマスターしました。

今年は希望があれば10月まで、この「夏特」制度でパイロットを受け入れますが、まずはここで報告します。

寒い冬は、暑い夏の予兆でもあります。オーストラリアはこれからが夏。ソアリングシーズンの到来です。 Shinzo Takizawa

===コラム1 1999年8月29日===

今年の夏休み特別企画で感じたこと

今年で8年目を迎えた「夏休み特別企画・集中トレーニングコース」も、今期の後半戦に入りましたが、最近この企画に異変が起きつつあるのを実感しています。

これまでオーストラリアの冬～春～初夏にあたるこの時期に、ナロマインを訪れてくれるお客さんは、初ソロかFRP単座機に乗ることを目的にした比較的経験の少ない人たちが主でした。ところがここ数年、スピード・トレーニングを目的にした経験豊富なパイロットの数が増え始め、とうとう今年は全お客さんの約半数を占めるまでになっています。



本来ならばこちらの真夏シーズンに飛び回っているような人たちが、何故この時期を選んで訪れてくれるようになったのでしょうか。勿論日本の夏休みの方が混雑している年末年始より休みが取りやすく、日豪間の航空券も安いということが大きいでしょう。

でもそれだけではないようです。お客さんたちのお話を伺ってみると、皆さん明確な目的意識を持ってこの時期を選んでいることが解りました。それは、「ソロ後・単座機後の自己の技量アップを目的としたトレーニング」という意識です。そこで考えてみました。



日本に限らずどの国でも、初ソロまではインストラクターが付きっきりで指導します。シラバスもそれなりに確立されていて、練習生はそれに沿って目標を達成することができます。

しかしソロ後、さらに自家用ライセンス取得後となるとどうでしょう。大多数の人たちが「自己流」の世界に入ってしまうのが現状ではないでしょうか。

「一人では飛べるものの、さて、次にどうやったら速く飛べるようになるのだろう」

「自家用は取ったけど次の目標が見あたらず、あれ以来技量が伸びていないな」

「ソアリング関連の本は色々読んでけど、どうやったらそれを実践できるのかな」といった悩みをお持ちの方は、以外と多いのではないのでしょうか。

幸いなロメインには世界一の気象条件と、安全な周辺の地形環境があります。強いサーマルを使って経験の少ない人でもクロスカントリーフライトができます。これまでも多くのお客さんにご満足頂けたことと自信を持っていますが、私は当初からの「環境」を提供するだけではなく、恵まれた環境を積極的に活用することを考え、競技経験豊富なインストラクターによる、中・上級者を対象にしたマンツーマンもしくは2~4機のチームフライトによるスピードトレーニングを続けてきました。

このトレーニング方法が、これら「もっと上のレベルへ・・・」と考えていた人たちのニーズに合致したようです。

今回訪れたお客さんたちから、「ここは、本格的なスピードトレーニングをやっていると聞いたので来ました」

「この時期のチームフライトトレーニングが良かったと友人から聞きました」

といった声を聞いた時に、これまで自分がやってきたことが間違っていなかったと確信するとともに、とても嬉しく思いました。

また、このような考え方の人たちが日本のグライダー界に増えてきたということは、必ずや全体のレベルアップにつながるだろうと喜ばしくも思いました。



もう今更言うまでもなく、グライダースポーツは奥が深く、どこまでいっても「もうこれで極めた！」といった到達点の見えないスポーツです。それ故、年齢、性別等に関係なく、努力を続ける限り進歩し続けることができるスポーツなのです。

私は今後もロメインを訪れてくれる人たちに、その人その人のレベルに応じた目標を提供し、それを達成するための適切な道筋を提示していきたいと思っています。

Shinzo Takizawa

Guest Report

“Smile”“Happy”を忘れない、「いいパイロット」になるために
 — ナロメインでの基礎徹底トレーニング —
 <要約版>



立命館大学体育会航空部 1 回生 奥村 仁

オーストラリアでフライトすることについては、残念ながら（特に学生の間で）かなり誤解が多いのが現状です。あの素晴らしいフライト環境が誤解されているのは実体験した私にとって耐えがたいものなので、ここでは本当のソア・ナロメインの姿を書くことにします。

<International Soaring Centre Narromine>

私の所属する立命館大学体育会航空部のコーチである稲森教官にナロメインと滝沢信三さんを紹介して頂いたのは、5月の木曾川新人合宿の時だった。もともと、夏休みはオーストラリアを旅する予定だったので、その計画の一部を変更して行く事に決めた。

しかし、私のナロメイン行きに関しては、賛否両論、いろいろあった。「どんどん飛んで、立命のエースになれ」と後押しして下さるOBや先輩の意見がある一方で、「危険だから」とか「操舵が荒くなるから」という理由で行くなと言う先輩もいた。確かに、かなりの不安はあった。たった1度の合宿で飛行経験は1時間。そんな私がナロメインで何ができるのか、何をすべきなのか、見当もつかなかった。しかし、ソア・ナロメインのホームページの日本語版を管理していらっしゃる井手尾さんとのメールでの幾度にもわたる情報交換を通じて、その不安は消えていった。そして皆さんの意見を参考に、とにかく「複座での基礎徹底」をしてもらおうと思った。将来のための着実な土台作りのためだ。



Narromaineの特徴は広大な大地。広いランウェイでのびのびとできました。

<4つの平等>

ナロマイン到着後、飛行場に隣接したオフィスでのブリーフィングで、唯一のルールがあると聞かされた。それは「みんな平等」であるということである。ここでは初心者もプロフェッショナルも平等。若者も年配の人も平等。もちろん男女平等で、国籍による差別をしない。唯一であるが、素晴らしいルールだと思った。だから、私から見て神のような存在である滝沢さんを「滝沢さん」とは呼ばず、“Shinzo”と呼ぶのだ。本当にグライダーを楽しむためにはこのルールは不可欠であると思った。



Discus2aの前で記念撮影。いつかは乗ってみたい、と思いました。

<長かったソロ・フライトへの道>

オーストラリアでは「簡単にソロに出られる」と思われがちである。確かに、そのようなところもあるかもしれない。しかし、少なくともSoar Narromineは違う。5日目くらいになって、ソロ・フライトのための離着陸練習を重点的に行ったが、徹底的に欠点を指摘され、修正された。どのような小さなミスも見逃してはくれなかった。結局、私がソロに出るのは12日間を要したが、その厳しいトレーニングのおかげで翌日から単座機に乗っても、何ら違和感無くフライトでき、初歩のソアリングまでマスターするに至ったのである。



風の穏やかな日を選んで初ソロに挑戦することになりました。離脱後は後ろを振り向いて後席にShinzoがいないことを確かめ、機長としての責任を実感しつつ、成長したなと思いました。

また、私の滞在期間中に、ある大学の航空部3年生が2人やってきた。彼らは日本国内で何度かソロ・フライトをしているのだが、初日のチェック・フライトでひっかかり、Shinzoの下で複座機による再教育を1週間受けていた。

このようにSoar Narromineでは、やすやすとソロに出してはくれない。もし、間違った操舵をするようであれば、それは複座で徹底的に再教育してくれる。このことは重要で、間違った癖をそのままにしておくのではなく、早期に発見して修正することで、将来的に「いいパイロット」になれるのだと思う。横風が吹こうと、機体が変わろうと、滑空場が変わろうと、苦労無しに飛べるようになるだろう。Shinzoは本当に素晴らしい教育者である。



で、さっそく乗ってしまいました。Shinzoさんとともに記念撮影。

<私の知らなかったグライダーの楽しみ方>

昼前に積雲が出始めてから、「さて、準備しましょうか」というShinzoの一言でハンガーへ向かい、機体を出す。フライトがうまくいかなくても“Smile”“Happy”を忘れるなどと言われて、上達する。クロスカントリーに出かけて2時間ほど飛び、気づくと6000ft上空にいる。タスクを達成したら、「シャウト」といって、みんなにビールをおごり、その日の話をする。日曜日の夜は、みんなでバーベキューパーティーをして、夜空の下で空のロマンについて語り合う。

このように、初心者のトレーニングだけではなく、アドバンス・パイロットの方にとっても、もちろん素晴らしいフライト環境だと思う。余計なことを考えずに、フライトのみに専念できるからだ。



<おかげさまで立同戦2部競技準優勝>

最初はクロスカントリーに連れて行ってもらって、大学航空部の中では味わえないグライダーの楽しさを教えてもらい、その後は基礎を徹底的に教えてもらい、悪い所は徹底的に指摘された。そんなShinzoのレスンプランのおかげで、立命館・同志社対抗グライダー競技会での2部競技(基本・応用操作について教官同乗で得点を競う)において、準優勝することが出来た。9人の2年生の中でたった1人の1年生だったが、これはまさにShinzoとNarromineのグライダー環境のおかげである。「着実にステップを踏んで基礎を徹底的に学び、グライダーを楽しむ」ということがいかに大切かということを実証することができた大会でもあった。

このように私が「いいパイロット」になるための着実な土台を築くことが出来たのも、ソア・ナロマインの「夏休み特別企画」のおかげである。シーズン中よりも安価に飛べることは、学生である私にとって、かなり強い味方であった。渡航費も最近は安くなってきていて、ナロマインはどんどん身近になっている。

なるべく多くの皆さんに、このすばらしいグライダー環境を味わって欲しい。いまだに誤解は多いけれど、行ってみればその誤解は簡単に消え去るでしょう。

立命館大学体育会航空部1回 奥村仁
ps005005@sps.ritsumeai.ac.jp



Shinzo, Christianeの2人で記念撮影。Shinzoだけでなく、Christianeも、この機体がお気に入りだそうです。



ASK-21すばらしい機体。とくにここNarromineのUKWには毎日乗っていたので、愛着がわきました。フライト後の掃除は、しっかりとやりました。



滞在中たいへんお世話になったASK-21の前で関西大学の2名とともに撮影。その後ろにDG101とDiscusが待機。



Discus2aでNarromaine初フライト前のShinzoさん。私のために複座機ASK-21の後席に縛られっぱなしだったので、気分転換になったでしょう。とても楽しそうでした。



Discus2の大きな特徴は反り上がったこの翼端。美しさとともに強さも伝わってきます。



僕も早くこんなベテランパイロットになりたい、と思わせてくださったのは山田さん。彼の操るASW-20は、昼間あがると夕方まで降りてきませんでした。



Discusの前で空の仲間と記念撮影。彼らとは1週間という短い間でしたが、大切な仲間になりました。